

届けよう 私たちの想い 輝く矢巾を願って



矢巾東小学校の児童95人が「未来の矢巾町」を創造し、ジオラマで表現しました。子どもならではの発想と視点で、矢巾東小の学区周辺と駅周辺をまちづくり。子どもたちが考える矢巾町の将来像はどうなっているのでしょうか。担当した先生と子どもたちに話を聞いてきました。

このジオラマを制作したのは、現在中学1年生で、この春に矢巾東小を卒業した95人の子どもたちです。

き、再現した地域は、矢巾東小学校の学区周辺と矢幅駅周辺になりました」と制作の思い出を話す菊池先生。

きっかけは、修学旅行の下見で仙台市を訪れ、そこで仙台市立七郷小学校が教育の一環として、防災視点で未来のまちを作っていることを知ったからとのこと。「子どもたちがふるさとの未来を考えるよい機会だと考え、1年間本気で矢巾町の未来を子どもたちと一緒に考えました」と当時担任だった菊池先生は話します。

「便利なところに便利なものがあるだけでは、ダメじゃない？」「町の西側には、病院や便利な建物が少ないよね」と感じた子どもは、矢巾北中の西側にテーマパークや個人病院、保育園が一体となっている会社などを作っていました。また、高齢者が認知症の予防や地域と交流をするための「お年寄りの大学」や、再現した地域に地下鉄の駅を作っていました。

矢巾町は、岩手医科大学附属病院の移転を契機に、まちが変化していくと考え、この点を子どもたちに意識させながらジオラマを制作させたそうです。はじめは、町内全域を再現しようとしたが、「思いのほか時間がかかることに気づ

「まちの魅力を発信」「福祉の充実」「だれもが安心安全に暮らせるまち」「便利なまち」をキーワードに、子どもたちが考える未来の矢巾町はたくさんさんの想いが詰まったジオラマになりました。

菊池先生に子どもたちにどうなってほしいか聞くと「ふるさと

平成30年7月1日 広報やはば 第773号



この模様は7月の「やはラヂ！」でも放送します！



左から菊池さん、一井さん、吉田さん

どんな想いで作ったのか この3人に聞いてきました！

- ①作ったものとその理由、②工夫した点
- ③どんなまちになってほしいか

菊池 絢菜さん

- ①田園ホール内にイベントホールを作り、音楽活動を盛り上げて他県にPRしたかった。
- ②透明な建物にして、ステージは中央に配置し、どこからでも見られるようにした。
- ③音楽が盛んな矢巾町になってほしい。

一井 茉流さん

- ①街灯を作り、明るいまちにして夜の犯罪を減らしたかった。
- ②明るい気持ちになってほしくて、街灯の色を青色にした。
- ③子どもも大人も安心して暮らせるまちになってほしい。

吉田 未来さん

- ①体育館にスロープを作り、お年寄りが階段を使わずに利用できる施設にしたかった。
- ②手すりは傾斜を付けるため、つまようじの長さを変えた。
- ③お年寄りが安心して暮らせるまちになってほしい。

が、自分の創造した未来でなくても矢巾を大切にしたい気持ちを持ってほしい。まちのために自分

ができることを考え、行動に移せる人になってもらいたい」と話しました。

制作したジオラマは8月末までやはぱーくに展示

今回のジオラマを広く町民の皆さんに紹介するため、やはぱーくに展示します。

- 展示期間 7月2日(月)～8月31日(金) ※最終日は午後3時まで
- 展示場所・時間 やはぱーくの開館時間内
- 問い合わせ 役場企画財政課情報係 (☎611-2725)

【写真の説明】 ①制作したジオラマの全体図②ビッグハウス前を再現③駅前の商店街④スロープの付いた町体育館と地下鉄の駅⑤東小の校舎⑥インタビューに答える菊池先生の矢巾北中西側のテーマパークや個人病院など